



Title	jaih-sとの共同企画フォーラム開催報告
Author(s)	
Citation	目で見えるWHO. 2012, 48, p. 11-13
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86759
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

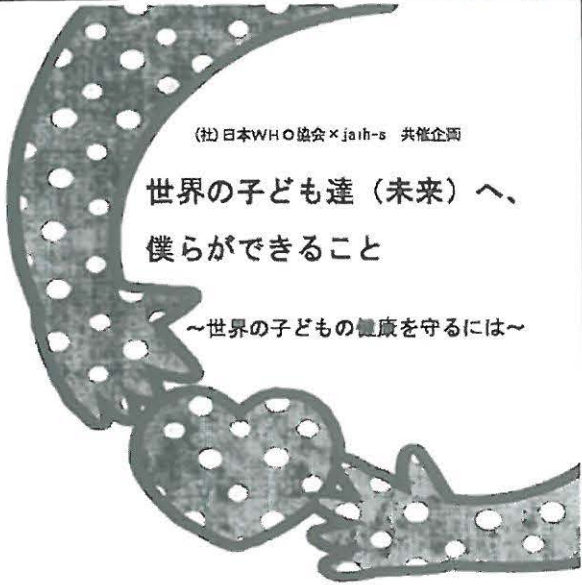
<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



jaih-sとの共同企画フォーラム開催報告

世界の子ども達(未来)へ、僕らができること～世界の子どもの健康を守るには～をテーマに、平成23年12月3日大阪市立大学阿倍野キャンパスでjaih-s(日本国際保健医療学会・学生部会)と共同企画フォーラムを開催しました。全国より70名余りの学生の他一般の方々等を合わせて120名余りのみなさまにご参加いただきました。



(社)日本WHO協会 × jaih-s 共催企画

**世界の子ども達(未来)へ、
僕らができること**

～世界の子どもの健康を守るには～

2011年12月3日(土) 13:00～17:30
大阪市立大学 阿倍野キャンパス

プログラム

オープニング
講演1
NGOから見た国際小児保健医療
特定非営利活動法人 HANDS プログラムオフィサー **溝上 芳恵 氏**

講演2
国際機関から見た国際小児保健医療
四街道徳洲会病院 国際協力部部長 **黒岩 宙司 氏**

講演3
国際小児保健医療総論
大阪大学大学院教授 **中村 安秀 氏**

ワークショップ
フィードバック
クロージング
交流情報交換会

●オープニング

白石佳孝 jaih-s 運営委員「『子供の健康を守ること=世界の未来を守ること』との考えから子どもに焦点を当ててフォーラムを企画しました。」

日本WHO協会 関理事長「国際医療の第一線で活躍されている講師の話を聞かれ、日頃大学では得られないことを学ばれ、将来の糧となることを確信します。」

jaih-s 中嶋麻子 第7期代表「国際保健医療へのかかわり方の多様性や多様なキャリアプランに触れて頂き、参加者のみなさまのキャリアパスの一助になることを希望します。」



●溝上氏の講演から

NGOは非政府・非営利の立場で活動する組織で国家・国際機関・民間企業などとは異なる動きができる。NGOはその組織の人数や活動内容はさまざまだが、実践型、アドボカシー(政策提言)型、ネットワーク型の3つのタイプがあり、2つのタイプの性格をもつこともある。

日本には国際保健医療協力をするNGOは、AMDA(設立時の名称:アジア医師連絡協議会)やSHARE(国際保健市民の会)等があるが、HANDSは医療だけでなく、住民の生活改善の指導が必要だとの思いで活動している。現地の人が主役になるシステムを作り、人材の育成に徹し

す。現地の人々が、各々の役割を果たせるように育成し、システムがうまく回るようにお手伝いしている。

ブラジルのマニコレ市は日本の九州ほどの広さにキャッサバと川魚を主食としている4万人の人が暮らしている。水運だけで道路がほとんどないこの地域に保健所が3か所と病院が1つあるだけなので、緊急時の通信手段を整備し、急病人の搬送用のボートを提供してインフラを整えた。また、現地のコミュニティ・ヘルス・ワーカーの能力の向上と、将来を担う青少年リーダーの育成に努力した。生活全般の向上を目指し、住民が栄養上バランスのとれた食事を摂取できるように、果実や野菜を育てる果樹園を設置するように勧めた。



溝上氏も執筆者である「国際協力NGOのフロンティア」

●黒岩氏の講演から

医師になって間もないころWHOで天然痘撲滅に尽力された蟻田功先生に会い、WHOへの憧れから、「WHOに行くにはどうしたらいいか」と尋ねていたら、会話が英語になり「最終的には人間性だよ」と話されたことが印象に残った。

1989年から2年間、青年海外協力隊員としてマラウイ共和国のクィーンエリザベス中央病院に小児科医として勤務した。アフリカのザンビアを中心に医療・農村開発などの国際協力活動をおこなっているTICO代表の吉田修先生やUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)やJICA(国際協力機構)の人たち、WHOのアフリカオフィスに行く目的で働いているドイツ人医師の方々等と交流することができた。医療の現場では、多くの子どもの死を経験した。日本では稀にしか脳症ならない麻疹の隔離の病棟があり、10人に一人が死んでいった。栄養不良で入院してきた子供は半分が死んだ。狂犬病の患者には、貧しいので予防

接種ができないため看護師は近づかなかった。

1998年からJICAの一員としてラオスの感染症対策プロジェクトのリーダーとして赴任し、当時の尾身WPRO事務局長が音頭をとられた、西太平洋地域でのポリオの2000年根絶宣言での活動を経験した。

子供の心を持って、大人の視点で活躍してください。途上国で働くということはリスクをとることもなので、自分の健康に気をつけてください。



黒岩氏執筆の「小児科医、海を渡る」

●中村氏の講演から

WHOの「ワールドレポート」とかユニセフの「世界子ども白書」は、ホームページからアクセスすれば入手できるので、目を通すことを勧める。

東西の対立がなくなった1990年代は様々なサミットが行われた。今動いているプロジェクトには、この時代に決められたものが多い。とりわけMDGsは最後のカウントダウンの段階に入っている。

国際保健の活動には、様々な組織が参画している。WHO、ユニセフのような組織だけではなく、近年はグローバルファンドの活動は顕著である。その一つがゲイツ財団であり、フランスから始まった航空券連帯税である。国際会議に保健とは関係のなさそうな企業が参加し、従来の考え方によるCSR(Corporate Social Responsibility/企業の社会的責任)の域を超えて取り組んでいる。

30歳代半ばに、家族同伴でJICAの専門家として赴任したインドネシアでは、早朝から訪ねてくる村民を友人として迎えた。日本から薬は持ち込まず、住民中心の活動に心がけた。

今回の東日本震災では、これまでのいろいろな国際協力の経験と知恵を活かすことができた。震災地の復興活

動に子供を関与させるべきと思い、子供たちだけの現地見学のバスを走らせたりもした。

産婦人科医のいない岩手県遠野市で活躍される助産師はITを活用している。(この号で紹介)

●ワークショップとフィードバック

「なぜ子供の健康が侵されるのか」を議題に9の班に分かれて討論が行われたのち、代表者が議論された内容を

発表した。

●クロージング

司会者が「このフォーラムが、多くの人の国際保健にかかわるきっかけになれば幸いです」と結んだ。

●交流情報交換会でも熱心に議論された。



最前列左から中嶋代表、関理事長、黒岩先生、中村先生、溝上先生、司会の白石氏

「人を繋げる、未来を繋げる」 世界のいのちのために・・・ みんなで活動しよう!



Jaih-s (Japan Association for International Health, Students Section)

HP⇒ <http://www.jaih-s.ne.jp/> お問い合わせ⇒ info@jaih-s.net

jaih-sとは、学生を対象に「国際保健に関わる人材育成」に取り組んでいる学生団体です。設立経緯は、厚生労働省の「国際協力に携わる人材育成の提言」を受けて、2005年11月に国際保健を志す学生たちにより、日本国際保健医療学会(JAIH)直属の学生部会として正式に設立され、今年で発足7年目を迎えています。

jaih-sの目的は、国際保健に関心を持つ様々な分野の学生に対して地域格差のない情報や機会の提供を行い、世界で活躍できる人材を育成することをもって日本及び国際社会に貢献することを目指しています。まずはメーリングリストへの登録を

- 1.メールで登録する jaih-s-subscribe@yahoogroups.jp このメールアドレスに、そのまま送信してください。
- 2.ウェブで登録 <http://groups.yahoo.co.jp/group/jaih-s/join> 配信方法などを選択できます。